

豊見城市立座安小学校における教育版 Gemini 活用ガイドライン

社会のデジタル化が進む中、本校では子供たちが最新技術を正しく理解し、賢く使いこなす力を養うため、授業において教育版 Gemini（以下 AI）を導入いたします。活用の目的と方法について、以下の通りガイドラインを定めます。

1. 授業で活用する目的

「AI に答えを出させる」のではなく、AI との対話を通じて、子供自身の思考を深める**ことを最大の目的とします。

- 思考のパートナーとして：自分の考えが行き詰まった時にヒントを得たり、異なる視点からの意見を聞いたりすることで、多角的な視点を養います。
- 個別最適な学びの実現：一人ひとりの理解度や興味に合わせて、難しい内容を噛み砕いて解説させるなど、個々の学びに寄り添う補助ツールとして活用します。
- 情報活用能力（情報リテラシー）の育成：AI が作る誤った情報（ハルシネーション）を見極める経験を通じ、情報を鵜呑みにせず、自ら根拠を確かめる姿勢を育てます。

2. 具体的な授業での活用方法

授業の特性に合わせ、以下のような場面で限定的に活用します。

- 【アイデア出し】（例：総合的な学習の時間）地域課題の解決策や、行事のスクローガンの案を AI に複数出させ、その中から自分たちの目的に合うものを選択・修正する。
- 【校正・アドバイス】（例：国語）自分が書いた文章を AI に読み込ませ、「もっと伝わりやすくするためのアドバイスをちょうだい」と、推敲のヒントをもらう。
- 【シミュレーション】（例：社会・道徳）「歴史上の人物」や「異なる立場の人」の役割を AI に演じさせ、対話することで理解を深める。
- 【要約・解説】（例：全般）専門的な用語やニュースを「小学生にもわかる言

業」に変換させ、学習の導入として利用する。

3. 学校が徹底する安全対策

- 個人情報の保護：児童が自分や他人の氏名、住所、プライベートな情報を入力しないよう、教員が操作を監視・指導します。
- 発達段階への配慮：基礎学力（計算、漢字、初歩の文章作成など）を習得する段階では使用せず、あくまで「基礎が身についた後の発展」として活用します。
- 適切なツール選択：教育委員会が安全性を確認したサービス、または学校管理下のアカウントのみを使用します。

4. ご家庭へのお願い

- 結果よりも「過程」を：AIを使って作成したものがある場合は、「AIがどう言ったから、自分はどう考えたのか」というプロセスをぜひ褒めてあげてください。
- 家庭学習でのルール：宿題（作文や計算等）をAIに丸投げすることは、本人の力にならないことをご家庭でもお話しください。